



花粉の少ない森づくりを応援しよう！

づくり支援倶楽部会報誌

26年度春号
第22号

発行日：平成26年 5月30日



- CONTENTS -

【特集】「森づくり推進プラン」の改定 ～東京における持続的な森林整備と林業振興～	1
2014年花粉飛散時期一斉PR報告	3
企業の森活動報告、森林科学園におけるサクラ保存の取り組み	5
平成25年度森づくり支援倶楽部活動報告	6

「森づくり推進プラン」の改定 ～東京における持続的な森林整備と林業振興～

平成26年3月31日、東京都は「森づくり推進プラン」の改定を発表しました。東京都の森づくりの今後の指針となるものなので、その概要と「花粉の少ない森づくり運動」の関連についてご紹介します。

平成21年3月に東京都は、豊かな都民生活に貢献する森林の整備と林業振興を図るため、「森づくり推進プラン」を策定し、スギ花粉発生源対策など様々な施策を展開してきました。その後、プランの策定以降、森林法の改正や2020年東京オリンピック・パラリンピックでの木材利用が期待されるなど森林・林業を取り巻く環境が大きく変化したことから、このたびプランの改定を行いました。

改定した「森づくり推進プラン」では、持続的な森林整備と林業振興に向け、立地条件等に応じた効果的な森林整備や伐採更新の継続による森林の循環推進、公共と民間両面からの多摩産材の利用拡大といった施策を掲げています。基本的な2つの視点と、4つの戦略に基づいた施策を展開していくことにしています（図1）。

〔基本的視点1〕

効率的な森林整備と安定的な木材供給

東京の人工林は、立地条件が様々で搬出が困難な箇所も多く、人工林のすべてを、木材供給を主とする経済的な林業の対象として整備することは現実的ではありません。費用対効果の高い地域での重点的な基盤整備や、森林施業の集約化など、市場競争にかなう効率化とコスト削減を追求する必要があります。

そこで、搬出の条件が良く、採算性のある木材生産が見込める森林では、積極的に伐採更新を継続して、森林の循環の推進と資源の有効利用を図ります。都は「スギ花粉発生源対策」とし



て、平成18年度からの10年計画で多摩地域のスギ林を花粉の少ないスギ等へ植え替える「主伐事業」を重点的に推進していますが、林業のコスト削減への取組も途上にあることから、伐採更新は全てを民間に委ねられる状況ではなく当面の間は、都としての公的関与が必要です。

一方で、奥山等の条件が不利な地域では、費用対効果を踏まえ、公益的機能の発揮に必要な森林整備を実施し、将来的には自然の遷移により維持・更新が図られるよう誘導していくことが必要です。人工林を生産性優先の森林と公益性優先の森林に明確に区分し、その区分に適した施業や集中的な基盤整備の実施によりコスト削減を図り、効率的な森林整備と安定的な木材供給を目指します。



(冊子「森づくり推進プラン」より転載)

[基本的視点 2]

民間が有する力の幅広い活用

4つの戦略 (図1)

高コスト構造や木材価格の長期低迷など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。多額の公的資金を投入し続けることは次世代に大きな負債を残すことになりかねず、行政が対応できることには限界があります。

一方で、都民や企業等は森づくりへの参画についてのニーズも高いことから、より主体的に森づくりに関わっていくことが期待されます。

森林を健全な姿で次世代に引き継ぐためには、第一義的に森林所有者が森林の整備や保全を図るという責務を果たすことが必要です。加えて林業事業体、都民、企業、行政等の多様な主体が有機的に連携しながら森林整備や林業振興、木材利用に対して、それぞれの役割を果たすことが求められることから、森づくりの様々な場面において、民間が有する力を幅広く活用していきます。

都民や企業等による森づくり

現在、都民に「花粉の少ない森づくり募金」等の資金協力や、多摩産材の積極的な利用を通して、森づくりに参画していただいています。

また、企業等との協働に関しては、スギ花粉発生源対策として、伐採後の植栽や下刈等の費用を寄附していただく「企業の森」を実施し、平成25年度末で、21件(約60ha)の協定が締結されています。今後、「企業の森」の拡充等により、「花粉の少ない森づくり運動」をさらに展開していきます。

戦略1 多様で包括的な森林整備の推進

- 森林区分の明確化
 - ・林道からの距離や標高などの立地条件のほか、森林経営計画の策定状況に基づいて森林区分を明確にし、区分に適した森林整備を着実に実施していきます。
- 森林の循環の推進
 - ・森林の持続的な循環を目指して、公的関与による伐採更新の推進に加え、徐々に民間主体による森林整備が進むよう施策を展開します。

戦略2 効率的な林業経営の実現

- 林業のコスト削減の推進
 - ・林道等の路網整備の促進や、東京の森林に適した作業システムの確立により、コスト削減を図ります。
- 林業労働力の確保と技術者の育成
 - ・伐採搬出や森林作業道作設などを担う技術者を育成します。

戦略3 東京の木「多摩産材」の利用拡大

- 公共利用及び民間需要の拡大
 - ・公共建築物等における利用を拡大するとともに、住宅利用に加えて、木の特性を活かした木材利用の多様化を進め、民間需要を拡大します。
- 次代を担う子供たちを中心とした木育活動の推進
 - ・森林・林業の役割や木材の利用意義等について、木に触れ、木を知る木育を通じて、子供たちを中心として都民に幅広くPRします。

戦略4 都民や企業等との協働による森づくりの促進

- 都民や企業等の要望に応えた仕組みの構築と多様化
 - ・「とうきょう森づくり貢献認証制度」の充実を図り、都民や企業等の森づくりへの参画を促進します。
- 多様な主体との協働による森づくり
 - ・多様な主体と連携してコスト削減や製品開発を推進し、合わせて「花粉の少ない森づくり運動」をさらに推進します。

花粉の少ない森づくり運動 2014花粉飛散時期一斉PR



多摩の森林で育つ花粉の少ないスギ

東京都と(公財)東京都農林水産振興財団では、都民や企業の方々に「花粉の少ない森づくり」への参加・協力を呼びかける「花粉の少ない森づくり運動」を展開しています。都民の方々に花粉の少ない森づくりについてのご理解、ご協力をいただくことを目的として、スギ花粉の飛散時期にイベント等を実施し、PRを行いました。

イベントの開催 学校での箸づくり体験 展示等によるPR シンポジウム

イベントの開催

多摩産材を活用した箸づくり体験などを実施し、工作などを楽しみながら事業への興味・関心を深めてもらいました。



新宿まちの先生見本市

2月1日 木工教室
場所：新宿区立西新宿小学校
来場者数：約60名
協力：NPO法人新宿環境活動ネット
新宿区

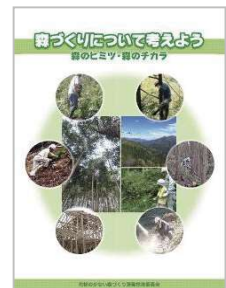
道の駅八王子滝山

3月8日 箸づくり体験
キーホルダー焼きつけ体験
場所：道の駅八王子滝山
来場者数：約70名
協力：道の駅八王子滝山
八王子市

学校での箸づくり体験

学校において、授業の一環として多摩産材を原料に箸づくりを実施しました。林業普及協力員による森林・林業の講義を行い、箸づくりを通して、東京の森の現状と木を使う事の重要性を伝えました。また、PR冊子『森づくりについて考えよう～森のヒミツ・森のチカラ～』の配付も行いました。

清瀬市立清瀬第6小学校	5年生	106名	1月28日
小平市立小平第13小学校	4年生	86名	2月8日
国分寺市立第9小学校	5年生	71名	2月8日
小平市立小平第6小学校	5年生	80名	2月18日
日野市立仲田小学校	3年生	67名	2月24日
小平市立小平第12小学校	4年生	65名	2月27日



PR冊子

展示等によるPR

企業や団体様のご協力を得て、ポスター掲示、多摩産材で作成したPRブースの展示、パネル展示などを行いました。

都営地下鉄でのポスター掲示

ポスターの掲示駅

- 2月20日～26日
- 新宿駅
 - 新宿三丁目駅
 - 神保町駅
 - 六本木駅
 - 目比谷駅
 - 三田駅
 - 汐留駅
 - 新橋駅
 - 東銀座駅
 - 日本橋駅



都営地下鉄の10駅の構内で、花粉の少ない森づくりPRポスターを掲示しました。

東京都民銀行との協働

多摩産材製PRブースの展示

- 2月26日～3月19日
- 池袋支店（豊島区）
 - 東新宿支店（新宿区）
- 3月12日～3月26日
- 保谷支店（西東京市）
 - 青梅支店（青梅市）



東京都民銀行による「花粉の少ない森づくり定期」の実施に伴い、銀行内にてブース展示によるPR活動を行いました。

多摩産材製PRブースの展示



エコギャラリー新宿



道の駅 八王子滝山



東京アグリパーク

各施設の協力により、多摩産材製PRブースやパネルの展示を行い、訪れた方々へのPRを行いました。

東京マラソン EXPO・東京マラソン 2014 でのPR



東京マラソン財団の行うチャリティー事業の協力団体に選定されたため、東京マラソン EXPO2014 及びマラソン当日において、ブース展示・事業説明などのPRを行いました。

八王子市あったかホールでのパネル展示



エントランスホールでのパネル展示を行いました。

シンポジウム

「花粉症に悩む都民」と「医療関係者」等を対象として開催された、第8回花粉症予防・治療シンポジウム(2月2日)において、「花粉の少ない森づくり運動」についてPRを行いました。



企業の森活動報告

第21号「企業の森・あくなき創造の森（青梅柚木）」協定締結

「花粉の少ない森づくり運動」の一環として企業・団体の協賛により、継続的な森づくりを行う「企業の森」を実施しています。このたび3月7日に新たな企業が参加されましたのでご報告します。

今回で企業の森第21号となる「企業の森・あくなき創造の森（青梅柚木）」の協定締結式を、サトーホールディングス株式会社、公益財団法人東京都農林水産振興財団にて執り行いました。

サトーホールディングス株式会社は、あくなき創造で持続可能な社会の発展に貢献することを企業理念とされており、森づくりボランティ

アへの参加を通じた従業員の環境意識の向上を目指し、企業の森にご参加いただきました。今後約10年にわたり、対象地の森林整備費等を寄附し、森林整備活動を予定しています。

▼ 協定締結式



森林科学園におけるサクラ保存の取り組み

—早咲き、遅咲き、変り種、いろんなサクラを楽しみながら、国の花、サクラの保存について考えよう—

「春の花」といえば、多くの人が最初に思い浮かべるサクラ。古来、日本人には人気が高く、植樹する際にも希望が多い樹種です。ところが、平成21年、青梅市において国内で初めてのPPV（梅輪紋ウイルス）発生が確認されました。このウイルスはサクラ属に感染するため、これまではサクラの植栽が制限されていましたが、昨年12月に解禁されました。今回、「サクラ保存林ガイド-DNA、形質、履歴による系統保存-」を刊行された「多摩森林科学園」取材いたしました。系統管理されたもっとも多くのサクラを鑑賞できるスポットとしてご紹介いたします。



多摩森林科学園のサクラ保存林は、農林省の桜対策事業として1966年度に旧宮内省の林業試験場跡地に設置されました。以後、公害や老化によって衰退するサクラの保存・研究を目的として、古くからの栽培品種や各地の名木など、約600系統、1,300本が植えられています。

桜の保存は、接木や挿し木といった方法で行われます。原木から芽や枝を採取し、他の木の根株に接いだり（接木）、枝から根を出させること（挿し木）で原木と同じ遺伝子を持つ固体（クローン）を増殖させるのです。

森林科学園のハイライトのひとつは、園内の回遊林道を散策する「桜めぐり」です。ゴールデンウィークの前半まで咲いている八重桜の仲間も多いので、「東京で一番遅い花見ができる場所」（吉丸博志園長）として連日大勢の来園者で賑わいます。また、昨年NHKの大河ドラマ「八重の桜」にちなみ、主演の綾瀬はるかさん命名による薄紅色の八重桜「はるか」も東北復興の願いとともに話題を呼んでいます。



その他、気持ちよく整備された園内ではサクラ以外にも数多くの動植物が観察できます。サクラ以外の樹木は500種類、カワセミ等の野鳥類、蝶（70種類）なども数多く生息しています。

森林科学園は、桜の花の咲く4月だけが見どきというわけではなく、秋の桜もまた一見の価値があるということで、ぜひ、誘いあって散策に出かけてみてはいかがでしょうか。

最寄駅：JR中央線高尾駅/京王線高尾駅 北口から徒歩10分
休園日：毎週月曜日（月曜が祝日の場合はその翌日。3月、4月は無休）
開園時間：午前9時30分～午後4時（入園は午後3時30分まで）

入園料：大人300円、子供50円（4月のみ 大人400円、子供150円）
お問合せ：独立行政法人 森林総合研究所 多摩森林科学園
TEL：042-661-0200（お客様専用）URL：<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>

平成25年度森づくり支援倶楽部活動報告

1. 平成25年度森づくり支援倶楽部収支報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収入の部(円)		支出の部(円)	
1	25年度会費収入 896,000	1	25年度運営経費 504,227
	内訳		内訳
	個人会員 442,000		(1)通信運搬費 105,640
	法人会員 450,000		(2)印刷製本費 117,882
	募金 4,000		(3)会員への特典購入に係る支出 280,705
		2	花粉の少ない森づくり募金 391,773 (苗木代として)
合 計	896,000	合 計	896,000

25年度森づくり支援倶楽部の会費から、花粉の少ないスギの苗木約3,200本分に相当する391,773円を寄附いたしました。

苗木は、今後、花粉対策室が行っている主伐事業の現場に植栽していきます。

18年度～25年度
支援倶楽部の寄附による苗木の本数 累計 約31,000本



2. 活動報告と予定

(25年度の活動報告)

5月 会報誌vol.18・活動報告書発行

8月 会報誌vol.19発行

イベント案内を発送

10月 森づくり支援倶楽部主催イベント
(植樹体験等)

11月 会報誌vol.20発行

平成26年

2月 会報誌vol.21発行

3月 入会の案内発送

(メールマガジンについて)

25年度の発信回数 25回

(26年度の活動予定)

5月 会報誌vol.22・活動報告書発行

8月 会報誌vol.23発行

イベント案内を発送

10月 森づくり支援倶楽部主催イベント
(植樹体験等)

11月 会報誌vol.24発行

平成27年

2月 会報誌vol.25発行

3月 入会の案内発送

(メールマガジンについて)

26年度の発信予定 原則月2回(第2・第4金曜日)

森づくり支援倶楽部 26年度入会のご案内

森づくり支援倶楽部では、東京の森づくりを応援する26年度の会員を募集しています。会員特典として、会報誌や多摩産材の木工品を差し上げています。会費は、運動のPR活動や花粉の少ない森づくり募金などに活用されます。

お気軽にご入会いただける

サポート会員 対象：個人	入会金 1,000円 年会費 なし
-----------------	----------------------

加入されると・・・

木製会員証、協賛施設割引券、会報誌が届きます。

より森づくりに協力したい&多摩の森林にご興味のある方

正会員 (個人)	年会費 3,000円 (ご家族6名まで登録できます)
賛助会員 (法人)	年会費 50,000円(1法人)

※年会費の有効期限は年度単位となります。毎年4月1日更新。

加入されると・・・

多摩産材製品(初めの方は会員証)、協賛施設割引券(20枚綴)、温泉施設半額券、会報誌が届きます。

また、倶楽部主催の森づくりイベントに無料でご参加できます！サポート会員は有料でご参加できます。

※ご家族の登録について：登録人数分の会員証発行とイベント参加費は無料です。その他の特典は1名分とさせていただきます。

ご入会お待ちしております

新規入会キャンペーン継続中

◆ サポート会員(新規)

新規でご加入された方を対象に先着20名様まで
多摩産材コースター
をプレゼント



イメージ

◆ 正会員(新規)

新規でご加入された方を対象に先着20名様まで
多摩産材カードケース
をプレゼント



今年度の正会員(継続)への特典は、多摩の木でできた「ペントレイ」

賛助会員のご紹介

～私たちは、「花粉の少ない森づくり運動」に賛同しています～

賛助会員を随時募集しています！(年会費50,000円)
会費は、「花粉の少ない森づくり」に役立てられます！

東京の森づくりを応援します

不動産コンサルティングのNO.1企業を目指す!!



環境ステーション

TEL:03-3561-4755

東京都中央区銀座1-8-14

東京木材問屋協同組合

理事長 吉条 良明

〒136-0082 東京都江東区新木場1-18-8 木材会館

URL <http://www.mokuzai-tonya.jp/>

TEL: (03) 5534-3111 FAX: (03) 5534-7711

立山産業株式会社

〈本社〉

〒197-0011 東京都福生市福生 973

TEL: 042-553-9111 FAX: 042-553-9152

URL: <http://www.tateyama-net.co.jp>

E-mail: eco@tateyama-net.co.jp

“考えます木材流通を前向きに” 東京材木商協同組合

〒111-0052 東京都台東区柳橋2丁目19番8号

URL <http://www.33.ocn.ne.jp/~zaisho/>

TEL (03) 3862-7081

FAX (03) 3864-9123

「東京の木の紙」のお問い合わせは

4030 株式会社 シオサワ

〒135-0004 東京都江東区森下1-3-12 (第二営業部)

TEL:03-3634-4871 FAX:03-3634-4872

URL <http://www.shiozawa.co.jp>

新東京木材商業協同組合

理事長 長浦慎一

〒171-0044 東京都豊島区千早 1-20-13

URL: <http://www.zaimokuya.or.jp/>

TEL:03-3959-7811

FAX:03-3958-3592

～木を育てたい。だから木を使おう。～ 社団法人東京都木材団体連合会

会長 吉条 良明

〒136-0082 東京都江東区新木場1-18-8

URL: <http://homepage3.nifty.com/tomokuren/>

TEL: (03) 5569-2211 FAX: (03) 5569-2233



多摩産材と暮らそう!

パネ協

日本住宅パネル工業協同組合

Japan Housing & Components Manufacturers Co-Operative

東日本支所

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-15-7

Tel: 03-3947-7611 Fax: 03-3947-7627

URL: <http://www.panekyo.or.jp>

公益財団法人東京都農林水産振興財団

森づくり支援倶楽部事務局

〒198-0036 東京都青梅市河辺町6-4-1 青梅合同庁舎3階

TEL: 0428-20-8153 <http://www.tokyo-aff.or.jp/club/index.html>

E-mail: moriclub@tdfaff.com